

「琉球処分」から140年 今の沖縄を考える

このような沖縄への差別的な扱いは1879年の「琉球処分」から発すると考えることができます。したがって、「琉球処分」の歴史やその意味を知ることを通して、今の沖縄を捉えなおすことが必要ではないかと考えます。

2019年6月24日(月)-28日(金)
かながわ県民センター●1階展示室 (横浜駅西口5分)

10:00 ~ 19:00 (24日は13時より、28日は17時終了)

主催／問合せ
記憶の継承を進める神奈川の会
電話◎ 090-7405-4276 090-8721-3222
メール◎ hiromatu914@yahoo.co.jp

会場：かながわ県民センター 2F ホール ●資料代 500 円

展示内容

「琉球処分」とは

沖繩戦

辺野古新基地建設強行

南西諸島への自衛隊配備

展示内容の概要

※関連 DVD の上映もあります（無料）



「琉球処分」とは

今年は、明治政府が琉球を一方的に武力で併合した 1879 年の「琉球処分」から 140 年。明治政府の行った最初の植民地政策だ。当時琉球は中国の清とも交流のあった独立国であった。この「琉球処分」は当時の琉球の人々にとって、どのようなものであったのか、それを通して現在の本土と沖縄との関係を考えてみたい。

◀首里城の正門（歓会門）に立つ明治政府軍の兵士（一般財団法人日本カメラ財団所蔵）

沖縄戦

「琉球処分」により植民化された沖縄は、徹底的な皇民化教育が行われ、アジア太平洋戦争では「国体護持」「本土決戦」のための「捨て石」とされ、多大な犠牲を強いられました。その実相を「沖縄戦新聞」を中心に振り返ります。戦後も日米の「要石」として、米軍基地を過大に担わされています。



辺野古新基地建設強行

沖縄の県知事選・県民投票などの「辺野古新基地建設 NO !」の民意を無視して安倍政権は辺野古の海の埋め立てを強行しています。それに対して、本土の人々も含めて沖縄の人々を中心とした粘り強い抗議行動が連日続けられています。辺野古新基地建設の実態と沖縄での抗議行動をパネルや写真でお伝えします。

南西諸島への自衛隊配備

防衛省は中国の軍事的脅威を口実に、南西諸島に自衛隊を配備しています。2016 年に与那国島・奄美大島に、そして今年 3 月に宮古島に配備されました。石垣島も計画されています。自衛隊配備を既成事実化しています。辺野古の問題は広がりを見せていますが、そのかげで、南西諸島では軍事化が着実に進められていることは、あまり知られていません。その実態をパネルで展示します。二度と「捨て石」にならないために！



講演

6月25日（火）18:30～20:30

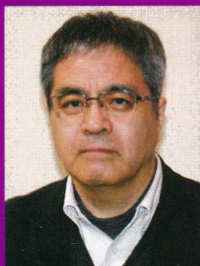
「琉球処分」140 年

明治日本はどのように琉球国を併合したのか

講師◎後田多 敦（神奈川大准教授）

会場◎かながわ県民センター 2F ホール

資料代◎ 500 円



後田多敦（しいただ・あつし）さんプロフィール
日本近代史と琉球史を専門としています。現在は主に 19 世紀末に明治政府が行った琉球国併合問題とそれに対する抵抗運動、そして琉球国で女性が担っていた国家祭祀制度の変容・解体過程を通して、近代日本の成立についても研究しています。研究方法は歴史民俗資料学です。（神奈川大学ウェブサイトより）

展示会場内のミニ講演（無料）

6月27日（木）14:00～16:00

辺野古と南西諸島の自衛隊配備

講師◎富田英司（静岡・沖縄を語る会共同代表）

★カンパのお願い

振込先口座名：記憶の継承を進める神奈川の会

●ゆうちょ銀行から

記号：10900

番号：25483601

●他金融機関から

店名：〇九八（ゼロキユウハチ）

店番：098

口座番号：2548360